



平成15年度廃棄物学会総会開催

廃棄物学会誌第 14 巻第 1 号にて告示のとおり、平成 15 年度廃棄物学会総会を下記により開催いたします。会員各位の積極的なご参加をお願いいたします。

1. 開催日時：平成 15 年 5 月 27 日(火)
午後 3 時 45 分より
2. 開催場所：中央大学駿河台記念館
(東京都千代田区)

ご審議いただく議案は、平成 14 年度事業報告、収支決算、平成 15 年度事業計画(案)、収支予算(案)です。(各議案の内容は、別添平成 15 年度総会資料をご覧ください。)

総会の開催には、会則第 25 条の規定により、正会員現在数の 4 分の 1 以上の出席が必要です。正会員各位のご協力をお願いいたします。なお、ご都合でどうしても**参加できない正会員の方は、総会資料に綴じ込みの委任状の提出**をお願いいたします。

総会終了後、平成 14 年度廃棄物学会賞表彰式を行います。また、引き続き懇親会を開催しますので、是非ご参加いただきご歓談くださいますようお願いいたします。



平成15年度研究シンポジウム開催のお知らせ

学会ニュース 73 号同封の開催要領及び学会誌第 14 巻第 2 号にてお知らせしましたように、平成 15 年度研究シンポジウムを以下のとおり開催いたします。なお、詳細は学会ホームページにも掲載しております。

1. 開催日時：
平成 15 年 5 月 27 日(火)～28 日(水)
2. 開催場所：
中央大学駿河台記念館（東京都千代田区）

3. 参加費：正会員、公益・賛助会員所属；3,000 円
学生会員、登録団体市民会員；1,000 円
非会員；5,000 円
(当日会場にて入会できます。)

※総会のみのお出席は無料です。

※懇親会への参加には別途費用が必要になります。

4. 参加申込方法

当日、会場に備え付けの参加申込書に必要事項を記入し、該当する参加費を添えてお申込み下さい。

研究委員会 活動内容のご紹介

廃棄物学会には6つの常設委員会がありますが、そのうちの 하나가研究委員会です。活動が見えやすい他の委員会と異なり、研究委員会と聞いてもピンと来ない会員の方も多いのではないのでしょうか。そこで、研究委員会の活動内容を紹介するとともに、そのもとに設置されている研究部会についても簡単に紹介したいと思います。

研究委員会は、学会として組織だった研究実施体制を固め、かつ研究推進のための調整を行うことを目的として、1990年に活動を開始しました。現在は第7期目で、松藤康司委員長のもとで活動を行っています。

研究委員会の活動は、研究助成に関すること、学会の研究活動に関すること及び研究部会に関すること、に分類されます。以下、この順に活動紹介をしていきます。

1. 研究助成

現在の助成制度は、研究の進展が望まれる重要な研究テーマを指定して研究プロジェクトを募る先導型研究（2年間）と、若手研究者の育成を目的として35歳以下の会員のみを対象とした奨励型研究（1年間）の2本立てとしています。昨年度の募集要項が <http://www.jswme.gr.jp/kenkyu/shien02.html> に、また、一昨年の研究成果が学会誌 Vol.13, No.6 で報告されています。例年、応募のあった研究計画について、研究体制、研究目的と必要性、研究計画と研究方法の各項目について委員会場で議論を行った上で採択テーマを決定しています。積極的な応募をお待ちしています。

2. 研究活動

ここでは、廃棄物研究情報の提供についてご紹介します。これは十周年記念行事の一つ「廃棄物研究レビュー」（CD-ROM）としてスタートし、2001年度からは（財）日本環境衛生センターと共同でデータベースの拡充を行い、（財）日本環境衛生センターのホームページから廃棄物研究情報を検索できるようになりました。詳しくは <http://www.jswme.gr.jp/kenkyu/info.html> をご覧下さい。

出版事業については、企画委員会と合同で出版小委員会を設置し、積極的に展開しています。

3. 研究部会

研究部会は、廃棄物研究において恒常的に必要となるテーマについて、研究者間の横のつながりの場を提供することで、情報交換や共同研究等の実施を促し、効率的な研究の推進を図ることを目的としています。現在、9部会が設置され、さらに2部会を新設します。研究委員会は、予算の確保と分配、小集会や学会誌特集等の部会成果発表の場のアレンジ、研究部会間の交流の場づくり等を行っています。以下、各部会の活動状況を簡単に紹介します。なお、部会員の募集方法は部会によって異なりますので、部会活動に関心のある方は、<http://www.jswme.gr.jp/kenkyu/bukai.html> に掲載されている各部会の連絡担当者までお問い合わせください。

<廃棄物計画部会>

この3年間は、排出抑制・資源化、計画・評価、市民・学習、事業経営・財政、21世紀の循環資源（管理）計画の5つのグループに分かれ、研究を進めてきました。昨年度の春

のシンポジウムでは「循環型社会形成に向けた廃棄物計画のあり方」、秋の小集会では「廃棄物計画と市民参加計画に市民が参加して何が変わるのか」を開催しました。

<消費者市民部会>

市民活動を行っているメンバーが中心で、他の学会には見られない特徴的な研究部会です。支部、市民会員制の新設で、今後の部会活動の拡大が期待されます。昨年度の春のシンポジウムでは「議論しましょう『わが国での拡大生産者責任について』廃家電リサイクル法を例にとりて」を開催しました。

<有害廃棄物部会>

小集会における情報発信を中心とし、毎年、有害廃棄物に関する最新情報を報告しています。昨秋の小集会では「土壌汚染・有害廃棄物対策の最新の動き」を開催しました。

<廃棄物行政部会>

定期的に研究会を開催しており、昨年度はごみ処理施策上の工夫に関する事例研究を行いました。昨秋の小集会では「プラスチックリサイクルと京都議定書」を開催しました。

<廃棄物埋立処理・処分部会>

埋立処分技術の標準化・あり方の検討を長期的な課題として掲げ、メールによる情報交換を行いながら活動しています。昨年度は、春のシンポジウムで「最終処分場新技術の開発・研究の動向」を開催しました。

<廃棄物焼却部会>

近年は、中間処理におけるマスパーン処理の位置付け・評価を課題としています。一昨年度には「ごみの中間処理におけるマスパーンの再評価—マスパーン vs ガス化溶融—」と題した小集会を開催しました。

<社会・経済部会>

昨年度、名称を変更し、再出発しました。循環型社会の形成に向けて必要な社会的・経済的システムの研究を長期的な課題としています。メールによる情報交換が活動の中心です。昨年度は「産廃税を考える」と題して小集会を開催しました。

<廃棄物試験・検査法部会>

これまでの、「ごみ質分析法」、「廃棄物・環境試料化学性状」、「バイオアッセイ手法」の3つのサブ研究会に分かれて、共同研究を行ってきました。昨年度から3期目に入り、体制、活動方針を再検討しているところです。秋の小集会も「今後の部会活動の展開について」というタイトルで行いました。

<リサイクルシステム・技術研究部会>

「循環型社会のためのリース・レンタル」、「各種廃棄物のリサイクルに関する状況・最新技術」、「市民による地域リサイクルシステムの構築手法に関する研究」、「リサイクルに関するLCA研究の整理」の4つのワーキンググループを設置して、研究を進めています。昨年的小集会では、「理想のリサイクルシステム・技術のあり方を考える」と題して、その中間報告を行いました。また、メール会員という制度がある点

が特徴的です。以上、研究委員会及び研究部会の最近の活動状況について報告いたしました。これを機会に、研究助成への応募や研究部会への参加を検討いただければ幸いです。

（研究委員会幹事 山川肇 記）

特別セミナー 「新エネルギー政策の進展と廃棄物関連エネルギー事業」開催報告

平成14年度廃棄物学会特別セミナーが、2月14日に東京都港区青山で開催されました。今回のセミナーテーマは、「新エネルギー政策の進展と廃棄物関連エネルギー事業」という正にホットな話題であり、64名の参加がありました。セミナーは、藤本副会長の挨拶後、東京農工大の柏木教授からの「新エネルギービジョンと廃棄物関連エネルギー事業への期待」と題する基調講演でスタートしました。新エネRPS法の説明、地球温暖化防止の見地から新エネルギー、特にバイオマスをはじめとした廃棄物関連のエネルギー利用が非常に重要視されること、グリーンクレジット（発電証明書）というこれまでにない市場が形成されることなどの内容で、誠に迫力のあるご講演をいただきました。

次に「廃棄物関連エネルギー事業の事例と事業展開面での課題」と題して、千葉市環境局の森塚課長補佐に最新鋭スーパーごみ発電の実例紹介をいただきました。さらに、「広域RDF発電事業の展開と課題」について、廃棄物学会の青山企画委員長とJFEグループ有本部長より講演をいただきました。その内容は、大牟田などをはじめとした多くの事例紹介、広域RDF発電は種々の難しさがある反面、エネルギー効率の高さなど

多くの有効性があること等でした。最後に、廃棄物学会の澤地副会長が「地方自治体が期待する廃棄物処理技術」と題して、関西のごみ発電ネットワーク化の研究、循環型社会形成のための総合システム評価、自治体の立場からの基本条件や望む技術等について分かり易く講演されました。

会場は熱気に包まれ、あっという間に4時間が経過し、盛会裏にセミナーは終了しました。

（企画委員会 玉出善紀 記）



▲講演をする森塚氏

「東海・北陸支部設立総会、記念講演会・市民フォーラム」開催報告

東海・北陸地区連絡会は平成12年1月に発足後、支部設立に向けて約1年の準備を進めてきましたが、平成15年2月22日（土）、東海・北陸支部設立総会において正式に支部として発足しました。当日は、これまでの設立準備経過が報告され、設立趣意書、支部内規、組織および常議員メンバーの各案が承認され、設立宣言が行われました。この後、高月紘廃棄物学会会長からご祝辞をいただき、無事に設立総会を終えました。引き続き開催された第1回常議員会で、平成15年度支部長を伊藤秀章氏（名古屋大学難処理人工物研究センター教授）、同副支部長を辻喜礦氏（中日本建設コンサルタント㈱）とすることが、満場一致で承認されました。

午後からは記念行事として、高月会長から「廃棄物問題と市民運動」と題するご講演をいただき、廃棄物対策と市民の役割、事業者と行政、市民の連携によるパートナーシップの構築がきわめて重要であることをわかりやすく丁寧にご説明いただきました。引き続き、市民フォーラム「生ごみの減量化に挑む」を開催し、木曾祥秋氏（豊橋技術科学大学エコロジー系）の総合司会によるパネル討論会が行われました。講師としては

西田秀明氏（名古屋市環境局）、餌取英樹氏（㈱おぎそ）、藤川幹男氏（NPO 環境浄化を進める会 岐阜）、石川英明氏（アサヒ環境システム㈱）、高見澤一裕氏（岐阜大学農学部）の5名をお願いし、行政、NPO、大学、企業の立場から生ごみの資源化、生ごみリサイクルの取り組み事例、生ごみのリサイクル技術、エコ資源としてのバイオマス系廃棄物の可能性などについて講演がありました。これに対して、会場からは熱心に質疑・討論が行われ、本行事は盛会裏に終えることができました。

（松田仁樹 記）



▲市民フォーラムの様子

【お知らせ】

第14回研究発表会(2003.10.22~24、つくば市)講演論文集のCD-ROM化のお知らせ

近年の講演論文集の重量増加を受けて、第14回研究発表会より講演論文集のCD-ROM化を実施することになりました。検索ソフトによる高度検索などの本格的な実施は来年度以降となり、本年度はその試行段階です。詳細は学会ニュースNo.76(8月末発行予定)に同封の参加案内に掲載しますが、概要は以下のとおりです。

- ・原稿提出方法はこれまでどおりで、変更はありません。(プリントアウトを提出)
- ・印刷版の講演論文集も作成します。
- ・参加申込み(学会ニュースNo.76同封)の際に、CD-ROM版か印刷版かのどちらかを選択してください。(両方選択もできます。ただし、追加料金が必要です。)
- ・CD-ROM版は事前送付します。印刷版は当日引き換えとなります。
- ・CD-ROM版、印刷版とも研究発表会当日も販売します。ただし、印刷版の講演論文集は事前申込み数をもとに印刷部数を決定しますので部数に制限があります。事前申込みをお願いします。

廃棄物計画部会 新規会員募集

計画部会では、平成15年度から新たなテーマで研究活動を行います。本活動に参加を希望される方は、追加募集しますので、奮ってご応募下さい。活動はテーマに応じてグループを編成し、3年間を一区切りとして研究します。

次のようなテーマを予定しています。

- 循環型共生社会の適正処理(環境負荷削減をめざして)
- 循環型共生社会の制度設計
- 循環資源の有効利用(バイオマス、建設発生土など)
- 市町村3R計画

上記の研究テーマは、集まったメンバーのご要望により若干変化する可能性があります。皆様のご参加を心よりお待ちしております。 計画部会 部会長 古市 徹

1) 応募資格

正会員、学生会員、賛助・公益会員所属のいずれか

2) 申し込み方法

①氏名、②E-Mail アドレス、③勤務先・所属等、④会員の種別(正・学生・賛助・公益)⑤関心のあるテーマ、を記入の上、下記までE-Mailにてお申し込みください。

3) 照会及び申し込み先

計画部会 幹事長 西川光善

E-Mail : m.nishikawa@kankyogiken.co.jp

4) 募集締め切り

平成15年5月30日(金)

5) 新規会員募集後の予定

6月5日(木) 14:00~17:00

東京都内において部会の開催を予定しています。

JSWME Newsletter No.44 (April)発行のお知らせ

英文ニュースレター44号が発行されました。

※JSWME NEWSLETTERは41号より電子配信のみとなっています。最新号、バックナンバーは学会ホームページから入手できます(アドレスは下記参照)。

PCB廃棄物処理の動向: 環境事業社によるPCB廃棄物処理事業
食品廃棄物のリサイクル: 東京都練馬区における取組み例
RDF発電: 九州における広域処理事例
JICAによる技術協力: 廃棄物処理分野の技術協力の概要
その他: 海外イベント紹介など

Contents of No.44

- 1 Dear Waste Management Experts
- 2 Promotion of the Destruction of PCB Wastes in Japan
- 3 Municipalities on the Move
- Food Waste Recycling in Nerima Ward, Tokyo -
- 4 RDF-Based Power Generation
- 5 Technical Cooperation by JICA in the Waste Management Area
- 6 Contents of Journal of the JSWME, Vol.14, No.1
- 7 International Symposium Information

☆☆事務局だより☆☆

イラク戦争、重症急性呼吸器症候群(SARS)の流行、不景気など、今年の春は何かと暗い話題が多く、気持ちも今ひとつ晴れません。しかし、巷に溢れる新社会人の初々しいスーツ姿を見ていると、こちらまで社会人になったときの緊張感が思い出され、気が引き締まる思いがします。

さて、今国会では、不適正処理への対応や効率的な廃棄物処理の確保などを目的とした廃棄物処理法の改正や、産業廃棄物に起因する支障の除去等に関する特別措置法の制定が提案されています。また残留性有機汚染物質、自動車リサイクル、土壌汚染対策など様々な視点から環境保全への体制が整備されつつあります。

小学校に通う子供との会話の中にも、ごみを減らす工夫とかリサイクルなどが頻繁に出て来るようになりました。廃棄物問題が身近であることが世の中に認識され、関心が高まってきていることは、これに関わる者として大変喜ばしいことだと思います。

廃棄物学会のこれまでの取り組みが実を結びつつあるといえるでしょう。今後は更に高度な知見を集約し、学術的な評価や提案など、世の中の期待に応えて行かなければなりません。会員の皆様の益々のご活躍が期待されています。(香川智紀 記)

会員状況

H15.3.31現在
()内は、H14.4.1以降の増減

正会員	3,556 (89)
学生会員	266 (28)
外国人会員(DM)	18 (-1)
公益会員	112 (0)
賛助会員	206 (-4)
計	4,158 (112)

注) 外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第4条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュースNo.74 平成15年5月1日発行
廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝5-1-9 豊前ビル5F

Tel.03-3769-5099 Fax.03-3769-1492



http://www.jswme.gr.jp
古紙配合率100%再生紙を使用しています